

真理の翼【79 回生】

兵庫県立神戸高等学校 進路指導部

[学ぶこと・思うこと]

中間考査が終わってから 3 週間が過ぎ、期末考査（7/2～7/8）が近づいてきました。定期考査は学習内容の定着度を測るものです。理解できていなかったところはしっかりと復習し、完全に自分のものにできていますか？努力を続けることに困難を感じている人はいないでしょうか？

孔子の有名な言葉があります。“子曰く、学びて思わざれば罔（くら）し。思いて学ばざれば殆（あやう）し。”現代語訳すると「先生は言われた。読書や先生から学ぶだけで、自分で考えることを怠ると、知識が身につかない。しかし、考えることばかりで読書を怠ると、独断的になって危険である。」となります。知識を身につけるための学習、そして知識を自分の血肉とするための思索。良い行動につなげるためには両方が必要となります。たとえば、料理をするにしてもレシピ本を読むだけでは決して料理は上達しません。かといって料理の知識がない人がレシピ本を読まずにいきなり料理をしても、独自の味付けや調理方法では美味しい料理を完成させるのは難しいでしょう。効果的に知識を身につけるには、知識を学ぶだけでなく、その知識を活かして自分自身の頭で考える。そのバランスを上手にとることが大事であると孔子は論じています。期末考査に向けて、知識の習得を確実にしながら、自分の頭で思索することにも大いに励んでみてください。

進路についても同じようなことが言えるのではないのでしょうか。大学や学部の情報をしっかりと調べることは大切です。しかし、情報だけでは足りません。自分がどうありたいか、世界とどう関わって行きたいのか。そんな生き方の課題は、情報には含まれてきません。自分の心に問い、自分の頭で思索するしかありません。的確な情報を得つつ、自分にも生き方を問い続ける。そんな姿勢を大切にしてください。

[本校での進路関係行事のお知らせ]

本校では、進路に関するさまざまな説明会や研修会を計画しています。いずれの行事も生徒のみならず保護者の方も対象です。

I. 九州大学出前講義（7月16日(水)15:40～17:00）7/1 ㍷切

講師：九州大学共創学部教授 鬼丸 武士 氏

九州大学共創学部教授 田尻 義了 氏

内容：九州大学共創学部についての説明、および模擬講義「災害と考古学」。

II. 神戸大学出前講義（7月16日(水)15:40～17:00）7/1 ㍷切

講師：神戸大学文学部教授 真下 裕之 氏

神戸大学国際人間科学部教授 井上 真理 氏

内容：神戸大学文系学部と入試制度について、文学部・国際人間科学部についての説明。

III. 医学部医学科説明会（7月10日(木)15:40～17:00）6/30 ㍷切

講師：河合塾医進館医学科進学情報センター長 山口 和彦 氏

テーマ：医学部医学科入試について

内容：医学部医学科入試についての全体像、医学科をめざすにあたり求められる人間像等の説明、質問コーナー

[模試について]**〇代々木ゼミナール 全国高2 共通テスト模試【マーク式】 8月11日（神戸大学深江キャンパス）**

進路資料室前に申し込み用紙があります。インターネット申し込みとなります。

申込期間：7/21～8/2 高校団体受験料：4,500円（一般受験料6,700円）

〈保護者の方々にも読んでいただきましょう〉

[オープンキャンパスに行こう！]※詳細は必ず HP で確認してください。

オープンキャンパスでは、大学についての説明や相談、学生と関われる企画などに参加でき、実際に大学の環境や雰囲気を感じ、通学の便も考えることが出来ます。2年生で時間に余裕があるうちに以下の大学をはじめ、HP等で調べて遠方の大学にも是非一度足を運んでみましょう。

東京大学 (オンライン開催・参加登録システム OCANs への登録が必要)

日時・内容：8月5日(火)・6日(水)10:00~18:00

大学・学部説明会、模擬講義等のライブ配信・収録映像配信、
オンライン質問会・相談会、バーチャル東大の公開など

参加登録期間：7/1(火)17:00よりOCANsへのアクセス可能

※事前申し込みが必要な企画と不要な企画がある。



京都大学 (直接来場自由参加可能・申し込み必要なプログラムあり)

日時・内容：8月7日(木)・8日(金)の2日間

学部紹介・相談・在学生交流コーナー、教員による講演会、
キャンパスツアー、校内施設見学など

事前申し込み必要プログラム：申込終了(残席先着順受付6/27(金)16:00~)

※定員のあるものについては、事前申し込みが必要。



大阪大学 (来場型・オンライン型・事前エントリー必要なプログラムあり)

実施日時：8月上旬~中旬(学部によって異なる)

学部説明、研究室訪問・相談会、模擬講義、学生生活相談、
受験相談、留学セミナー、在学生スピーチ、装置見学など

事前エントリー：7月上旬~中旬(学部によって異なる。人間科学部の来場型受付は終了)

※予約制プログラム(「マイページ」の作成が必要)と予約不要のプログラムがある。



神戸大学 (主に対面型・「マイページ」の作成が必要)

学部	開催日	事前申し込み受付期間	
文学部	8月7日(木)	7月上旬開始予定	※先着順
国際人間学部	8月8日(金)	7/7(月)20:00~8/1(金)17:00	※先着順
法学部	8月6日(水)	7/6(日)9:00~8/1(金)17:00	※先着順
経済学部	8月8日(金)	7/7(月)20:00~11(金)17:00	※先着順
経営学部	8月7日(木)	7/6(日)20:00~31(木)17:00	※先着順
理学部	8月6日(水)	7/7(月)7:00~8/4(月)23:59	※先着順
医学部医学科	8月7日(木)	7/3(木)6:00~16(水)12:00	※先着順
医学部医療創成工学科	8月7日(木)	7/1(火)17:00~8/4(月)17:00	※先着順
医学部保健学科	8月6日(水)・7日(木)	未定(7月上旬を予定)	※先着順
工学部	8月7日(木)	7/14(月)6:00~21(月)23:59	※抽選方式
システム情報学部	8月6日(水)	7/14(月)10:00~21(月)23:59	※抽選方式
農学部	8月7日(木)	7/3(木)12:00~10(木)12:00	※抽選方式
海洋政策学部	8月7日(木)	7/6(日)9:00~8/4(月)23:59	※先着順
<理系志望の女子向け オープンキャンパス>	8月7日(木)・8日(金)	7/5(土)9:00~31(木)23:59	※先着順
<キャンパスライフ 支援センター>	8月6日(水)・7日(木)・8日(金)	7/1(火)~8/5(火)	※先着順

※内容は、学部学科の概要・講演会・入試説明会・相談会・模擬授業・
受験学生生活体験談・施設設備の見学・ポスター展示・その他

※オープンキャンパス当日は、抽選で当選した本人以外キャンパス内に入れない。



[大学入学共通テスト 出題の特徴パート 2]

前回の第 1 号では、大学入学共通テストの出題の特徴として文系科目を紹介しました。今回は理系科目を下にまとめています。

【数学Ⅰ・A】

大学入試センターの問題作成方針にあるように、日常生活における様々な現象に関連付けて作問されているが、数学の一般的な問題ももちろん出題されるため、まずは基礎的な知識・技能や概念・法則をきちんと身につけておくことが必要不可欠である。特に、基礎的な問題に対しては解くスピードも必要であるから、できる限り共通テスト形式の問題にたくさん触れて慣れておく必要もある。

問題の構成としては、大問ごとに前半で具体的に、後半でそれまでの解法を簡素化した流れを提示し、前半の考え方に倣って考察し解答する、というものが目立つ。つまり、自分では違う解法を思いついたとしても、問題に対して出題者側の方針に沿う立場に立つ必要があるから、単に「解く」だけではなく「読み解く」力が求められる。「読み解く」力は資料、データから考察する問題だけではなく、会話形式であったり、問題設定や出題者側の意図を読み取る際にも必要である。本校の結果の特徴としても、下位層の生徒になればなるほど各大問の後半の得点率が低い。これは、基礎的な問題はこなすことはできても、解くスピードと読み取る力が不足し、出題者側の意図を理解したり、考察するに至らないのではないかと推測される。参考書などで別解のある問題などは、当然会話形式の問題に適用されやすいであろうし、複数の考え方を並べて考察する対策になるから、普段から注意は必要であろう。さらに、数学だけでなく、日常生活から相手の意見の意図を汲み取ることが苦手な生徒も増えてきているかもしれないので、定期考査や実力考査などで対策できるようにしていきたい。

【数学Ⅱ・B・C】

これまで実施されていた「数学Ⅱ・B」から試験時間は 10 分増加した。問題数は昨年度までの 5 題（1, 2 が必答、3～5 から 2 題選択）から 7 題（1～3（数Ⅱ分野）が必答、4～7（数Ⅱ・C 分野）から 3 題選択）に変更された。「平面上の曲線と複素数平面」の単元において、試作問題では出題されていた「平面上の曲線」は出題されず、「複素数平面」のみの出題となった。

共通テスト形式の特徴である日常を題材とする問題は 2 と 5 で出題された。

全体を通して標準的な問題が多く、対策問題集等で演習を重ねていれば十分に高得点を狙える問題であったといえる。実際に上位 1/3 の生徒は平均点 90 点を超えている。逆に言えば、演習量が不十分であったり、計算ミスによる減点があったりすると振るわない結果となったのではないか。文系生徒と理系生徒の平均点の差が例年より開いたのは、その差かもしれない。

【物理基礎】

本試験の設問数は令和 4 年度 17 問、令和 5 年度 16 問、令和 6 年度 17 問と推移してきたが、令和 7 年度は 15 問であった。設問数が若干減ったものの、構成は例年通りである。第 2・3 問で正答率の低くなっている考察問題では、設問の意図を読み取り、基本的な知識を応用する力が必要である。

共通テストでは実験をもとにした問題が多く出題されるので、実験や実験データを考察するような機会を設けるとよい。全体を通じて、多くの知識を必要とするわけではないが、あいまいな理解では全く解くことができない。特に力学分野においてはしっかりと本質を理解することが重要である。その他の波動、音波、電気では、出題される内容は限られているが公式を覚えておくだけでなく、基本的な内容は理解しておくことが必要である。

【物理】

今年度はマーク数が 24 で、昨年より設問数が増え、マーク数が 2 つ増えた。文字式の計算が増え、難易度は、やや難化したと思われる。全 28 問、第 1 問が総合問題、第 2 問が電磁気、第 3 問が波動・原子、第 4 問が力学であった。

本校の上回り率は上昇してきているので、授業等で物理の基本概念や法則の理解を養ってきたものが発揮できたと思われる。しかし、まだ物理の基本的な学習ができていない生徒も見受けられた。

〈保護者の方々にも読んでいただきましょう〉

過去の共通テストと同様に今回の共通テストでも、物理現象を式で書き表すだけでなく実験などを通して現象を理解することが重要とされ、図やグラフを利用して考察させる出題傾向が見られた。

ただ、原理や法則、概念の基本が十分に理解できていないところもあり、また、グラフや図を見たときに物理現象の特徴や違いを深く洞察できていない場合も見られる。物理の共通テスト対策としては、ただ単に物理の問題を解くだけでなく、普段の授業で、原理や法則、概念等を踏まえうえて式の導出をしたり、簡単なモデルに直して物理法則を理解したり、実験や演示実験等を通して科学的に見る力を養うことが必要である。

【化学基礎】

構成は大問 2 題で全 16 問、大問[1] (物質の構成と変化 10 問)、大問[2] (物質の変化 6 問)。昨年度と比較してマーク数は昨年より 1 増えたが、小問数は 1 問減っている。計算問題が増えているが全体での分量は例年から大きく変化はなかった。問 1 では例年通り教科書の内容からまんべんなく出題され、標準的な難易度の問題がほとんどであったが、化学量の計算に関するやや難易度の高い問題も含まれた。問 2 では 空気に含まれる気体成分の発見や質量保存の法則を取り上げた問いが出題された。昨年に比べ、第 1 問は一部を除き、基礎的な理解を問う内容が多かったが、第 2 問は総合問題であり、思考力や計算力が必要とされ、やや難易度が高かった。本校生徒は第 1 問で健闘したものの、第 2 問後半の正答率がふるわず得点につながらなかったのが惜しかった。

【化学】

新課程 1 年目であったが昨年度と同様の大問構成である。平均点が高い科目が多かった中で化学は全国平均が 45 点台と受験生にとって大変難しい問題セットであった。コロイドでは教科書の図の注釈の中にだけ書かれている「サスペンション」「エマルジョン」の用語や、本校使用の教科書には記述のない「ネオンサイン」が正解に絡むなど、細かい知識が求められている。比較的苦手な生徒が多い計算問題も一ひねり、二ひねりしてあり、単に公式にあてはめるだけで解けるような問題が少ない。ここ数年間で化学は低い平均点になることが多い。過去には計算問題や実験系の設問の得点率が低い傾向にあることがよく指摘されたが、知識問題や教科書にない反応に基づく思考力問題等についても対策を講じる必要があるだろう。

【生物基礎】

出題は例年と変わらず 6 分野から 17 問が出題された。出題された分野は、細胞・セントラルドグマ、代謝、恒常性、免疫、物質循環とエネルギー、バイオームであった。全体としてみると、受験生にとって難しいものではなく、全国平均がやや高いことを踏まえると、本校生も全体としては良い結果であったと考える。

今後、問題が難化することを想定すると、基本的事項のつながりを理解させること、問題文の読解力を伸ばす取り組みがさらに必要である。共通テストは単に知識を丸暗記しただけでは太刀打ちできず、知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められている。授業をベースに知識を増やし、教科書の内容を図や実験も含めて正確に理解することが重要で、特に考查問題は間違えたところを復習する習慣をつけたい。

【生物】

全国平均は、2022 年度・2023 年度と 50 点に満たなかったが、2024 年度によりやく 54.8 と易化、2025 年度も 52.2 (最終集計) と昨年度並みであった。

共通テストは単に知識を丸暗記しただけでは太刀打ちできない。大学入試センターによる共通テストの作成方針には「深い理解を伴った知識の質を問う問題や、知識・技能を活用し思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する」とある。3 年間を通してまずは知識を正確に身につけること、さらには演習を通してその知識を活用する力をつけることが大切である。弱点とみられる設問は、実験考察型の仮説検証や推論である。日頃からあらゆる機会をとおして、探究のプロセスに対しての考察能力を育成する必要がある。